

「担い手経営革新促進モデル経営体」チェックシート

市町村名		(旧町村名)	
経営体名		(代表者名)	
住所	〒	TEL	
		FAX	
経営面積(ha)		モデル実証面積(ha)	

下記技術を実施する面積を記入して下さい

【以下(1)～(3)全てを満たすことが必須条件です】

チェック

(1) 品目横断的経営安定対策の加入者である											
(2) 米・麦・大豆のうち2作目以上に取り組んでいる											
(3) 以下の項目を満たす経営体である											
事業の趣旨を理解している											
H23年に向けて、おおむね次の経営面積を目標としている											
<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">・平坦地</td> <td>個別経営体</td> <td>20ha</td> </tr> <tr> <td>生産組織</td> <td>50ha</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・中山間地</td> <td>個別経営体</td> <td>13ha</td> </tr> <tr> <td>生産組織</td> <td>32ha</td> </tr> </table>	・平坦地	個別経営体	20ha	生産組織	50ha	・中山間地	個別経営体	13ha	生産組織	32ha	
・平坦地		個別経営体	20ha								
	生産組織	50ha									
・中山間地	個別経営体	13ha									
	生産組織	32ha									
上記目標水準の妥当性がある											
今後3年間、モデル経営体としての責務を果たせる											
作業台帳を整理するなどして、労働時間、生産費等の経営に関するデータを確実に記録できる											
現地検討会や成績検討会等、新技術や経営のポイント等について、地域へ普及する活動を実施できる											
毎年度、モデルとしての実績を報告することができる											

【19年度に実施する技術全てをチェックして下さい】

技術項目	技術の名称	技術の内容	チェック
労働力配分の合理化	大豆の狭畦無中耕無培土栽培技術	大豆における中耕培土を省略する安定多収・省力化技術	
	大豆の不耕起播種技術	小明渠作溝同時浅耕播種技術	
		耕うん同時畝立て播種技術	
	麦の不耕起播種技術	小明渠作溝同時浅耕播種技術	
		耕うん同時畝立て播種技術	
	水稻直播栽培技術	カルバ-コーティング等による水稻直播機(条播・点播)を用いた土壤中直播技術	
コーティング種子の動噴等による水稻種子散播技術			
専用播種機による不耕起乾田直播技術(V溝直播など)			
土地利用の合理化	高度施肥管理技術	水稻の生育量並びに葉色診断(葉色板・SPAD)による適切な追肥技術	
		麦の施肥調節型肥料による生育中期の茎葉窒素濃度の安定化と葉色診断による適切な追肥技術	
	麦・大豆の作期競合回避技術	播性の高い小麦イタダイの播種後に晩生大豆フク10を適期に収穫する技術	
	休閒緑肥の導入	水田輪作体系に地力増進作物を導入する技術	
資本装備の効率化	耕起・施肥・播種同時作業機の導入	麦・大豆の降雨回避等適正条件下での播種等同時作業による出芽安定・省力化技術	
	多目的管理作業機の導入	稲、麦、大豆等の生産において、防除、施肥等の複数の作業を行える汎用作業機の導入技術	
		自走式の畦畔管理機の導入技術	
	汎用収穫機の利用技術	複数の作物に利用可能な収穫機の導入による低コスト化技術	

「モデル経営体」となるためには、～ の技術項目のうち、2項目以上で各1技術以上実施する必要があります。

7月末日までに、居住の地域担い手育成総合支援協議会へ「モデル経営体の応募様式(様式第4号)」とともに提出下さい。